

授業方法について独自に工夫していること【創造科学系】

両方の授業において、自分の大学生時代に充実を感じた授業の方法上の「しかけ」を行うことを意識している。

- ・本時の到達目標の内容については、板書を計画している。
- ・学生との対話をいれることで理解度を確かめて、知識習得の前提となる事柄(背景、実情)についてアドリブであっても補足説明をしている。
- ・学ぶ内容が大切な理由について、知らないことが実践の質を低くしている例を紹介している。

- 体育科教育について学ぶのはこの機会だけであるので、できるだけ授業映像を活用して、日頃の体育授業づくりのイメージをもつことができるようにした。
- 小学校体育は、教科の中で唯一教科書のない教科であるので、できるだけ運動教材例を配布資料にて提示した。また、学習指導要領解説にある例示は、独特の運動教材名であるため、言葉だけでは理解しにくい。そのため、例示と整合性をもたせた図絵を整理した資料を配布した。
- 体育授業づくりで陥りやすい代表例を上げ、具体的な改善法とその理論的な背景を添えて説明するようにした。

独自かどうか分かりませんが、今回は「対話型」授業を目指し、発問と回答の繰り返しから、次の発問へというサイクルを継続するよう努めました。

本授業においては、小学校図画工作科の指導に必要な基礎的な技能を、演習を通して身につけることが主な目的です。受講生の学習内容の定着をはかるために、各回の授業での活動を省察する「授業シート」を活用しています。この「授業シート」を主な成績評価の資料としています。また、積極的にICTを活用し、授業内容に関する情報保障に努めています。

とりたてて新しい取り組みではありませんが、聞いているだけでは学生自身で考えることになかなかつながらないので、自分で調べる、グループで討論する、発表をする、という活動を積極的に取り入れるようにしています。

できるだけ学生の興味を引くように、実技と講義のバランスを考えてカリキュラムを作っている。また、学生が主体的に学ぶ姿勢を作れるよう、グループで行うような課題を多く取り入れている。

受講生たちが、教員になっていくことを考慮し、授業内容を工夫している。たとえば、制作の材料を、既製品を使うのではなく、材料(竹)の成り立ち、性質を理解するためにも自ら切り出して、適したサイズ等に加工し、それから制作させる。また、ただ制作するだけでなく、子どもたちの教材として取り入れた場合を想定し、留意することや気づきなどもレポートとして書いて提出するなど。

さまざまな素材による描画活動を、教える人の立場からそれぞれまとめることに重点を置いている。ファイリングした技法を、現場でも使ってもらいたい。

実技のため、教えるばかりではなく、学生たちから引き出すような工夫を行っている。苦手意識が大きい領域のため、まずは「楽しむ」こと、そして「指導する」ことに視点を置きながら進めた。

ピアノを弾く経験の有無で大きく差がでる科目です。初心者には基本的なこと、経験者にはより音楽的なことというように個々に応じた指導を心がけています。

前期の授業同様、なるべく実技(歌唱・演奏)の時間を増やす。アンサンブルにも、時間を使い、音楽の力と共に、学生同士のコミュニケーションの力も伸ばすようにする。

- ・学生が体験や活動をしたり、調べをもとに互いに学び合えるような方法を取り入れたりすることで、授業を受けているという感覚ではなく、自分たちが主体的に学んでいると思えるようにしたいと考えている。
- ・社会の流れに沿うように、なるべく新しい情報を提供し、職に就いて即役立つように考えている。
- ・毎時間の学びを多面的に評価できるようにしている。

小学校の教科教育であることを踏まえ、

- ・できるだけ教育現場に近い資料などを提示したり活用したりしている。
- ・小学校の授業で使用する内容から選択し、具体的な活動を通して指導法を身につけることができるようにしている。

特に低学年指導では体験的に学ぶことを意識的に行っている。

- ・小学校6年間を見据えて、各項目を段階や系統を意識した内容にしている。

おおよそ毎時間、ワークシートを用意し、思考を促すように課題を与えている。

原材料をはじめ、実物の教材などを使用し、五感や感性、興味や好奇心などを引き出すようにしている。映像資料は、可能なかぎり最新のものを使用し、共感や観察する力の基礎になる内容を選択している。各種資料は原著を用い、資料を丁寧に読みとる意義について触れるようにしてる。

ピアノの経験者と非経験者の差が大きく出る科目である。非経験者には技術的に複雑でない曲、経験者にはそれ相応の曲を指定するなどしている。時間に余裕があれば、手首の位置や簡単にグランドピアノの構造を説明し、注意すべき左右のテクニックや音量の違い、聞こえてくる音のバランスの大切さについても説明するようにしている。

体験を通して納得し理解してもらえるように、できる範囲で実習・実験を取り入れて学んでいただけるように努力しています。学生さんたちは、私が思っていた以上にでき、やる気に満ちていて教え甲斐がありました。

講義だけでなく、個々の学生が資料をまとめたり、グループでの話し合いをした。授業の最初に5つほど問いを提示し答を書いてもらい、授業の中で正しい答がわかるような組み立てにした。

小学校の音楽の授業の中で一番多くの時間を占めるのは歌唱指導である。その教材に関しては、各教科書の出版社から指導書なるものが教員用にある。その指導書に掲載されている事をなぞっても仕方ないので、そこに書かれていない、しかし、是非、子供に教えてほしい内容を一人の学生に教員の役をしてもらい、他の学生は生徒となり、その課題の授業を進めながら私の専門分野から発声法、歌唱法の指導を中心に授業を進めた。

実技を中心に、ホワイトボードを多用して、現行学習指導要領の解説につながるような工夫をしている。実践を通じて、批評的な立場で授業の内容を振り返りさせている。毎回のレポートにより、理解度をおおよそ把握しようとしている。レポートの内容は、次回の授業にできるだけ反映しようとしている。

今回出された成績について 【創造科学系】

両方の授業とも「ためになった」ような意見が寄せられており、ある程度、授業での手応えと一致していた。受講への満足がある程度あったと思われる。「説明が聞き取りやすさ」について、発言の一文の長さなど、あったかもしれないので、

「問1 この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた」において「①強くそう思う」「②ややそう思う」を合わせて、「AⅡ」97.9%、「BⅡ」93%、「CⅡ」100%、「CⅢ」100%、「CⅣ」100%とあり、「問10 この授業の教育目標が達成できたと思いますか」もほぼそれに近い数値となっていることから、授業の目標は達成されていると考えている。

自由記述で、教師になりたい気持ちが高まったり、教師になったときの自分を想起したりする内容があったことは大変うれしかった。今後も、体育科教育Aの授業を通して、小学校教師になりたい気持ちを大切にしたいと思う。

授業や入試など「成績」を評定化したとしても、それが適切な教員養成になっているかどうか悩むところです。真性の評価観点を常に模索し続けるしかないのかと思います。入試は点数主義のため、合格しても教員志望でない学生がいたり、講義成績が優秀だった学生も、教員になって不祥事を起こしたり、1年も保たず離職したりする例があるのではないかと思います。自分の場合、今のところ、まじめに出席する学生の成績数値が高くなります。今後は教員として必要な能力を考へ評価の観点に入れていきたいと思っています。

主な成績評価の資料である「授業シート」の記載内容で成績をつけています。15回の授業の中間(7~8回目)に回収し、その記載内容のチェックをしています。このことで最終提出時には記載内容の改善がされている状況があり、よい成績をとっている受講生が多いです。

今年度は出席率が非常に悪かったことが課題でした。そのため、全体的な成績はこれまでよりも低いものになっていると思います。授業の内容を理解し、自分自身で考えを深めることも大切ですが、教師になろうとしている以上、きちんと出席する、提出物を遅れずに提出するという基本的なところも指導していかなくてはならないと感じました。

真摯に受け止めます。

授業態度と、提出された作品を見て、まじめに取り組むことができたかどうか評価した。

出席、授業参加、レポートで総合的に成績を出した。

ピアノを弾いたことのない学生の努力を成績に反映できるように考えました。弾く曲の完成度だけでなく、曲数や弾く曲の難易度も考慮しました。

楽器未経験者が、積極的に授業に参加できるよう、出席状況を重視した。

・主体的に学習に取り組んでいる学生が多く、楽しく学習に取り組んでいる様子が見受けられたので、私自身も楽しかった。自分なりの工夫や努力をして授業に臨んでいる学生には、それなりの評価をしたいと思います。

・授業の出席率を加味した。
・教科教育に対する心構え、講義内容の理解と応用力をみるようにした。
・得意不得意ではなく、積極的に取り組む姿勢を大切にしたい。

大半の学生が非常によく努力していたと思う。ピアノの練習が好きか嫌いか、嫌いでも努力するかどうかということで曲の完成度が違ったものになってくる。総合的に判断し成績を出した。

学生さんたちが、この授業で新しい考え方や知識・技能が身についたと言ってくださってうれしかったです。たった15回の講義で免許をもらう資格がいただけるので、将来教員になられた時少しでも役立つようにしたいと思って授業をしています。

成績をつける際は、基準をつくり、大きく分け、その後に加点できる点を探している。

アンケート結果を受けて改善したいところ 【創造科学系】

「説明が聞き取りやすさ」について、発言の一文の長さなどがあつたかもしれないので、それを含めて改善をはかりたい。

今回のアンケートで特徴的な点を挙げるとすれば、授業自体には満足していても、それを「自分で問題点を深く考えた」とか「さらにその思考に基づき行動した」となると、「③ どちらともいえない」「④ あまりそう思わない」の数値が増えるという点である。つまり、学生は自分からさらに学びを展開するということはしていないということである。授業外の学びについても、今後意識的に働きかけていきたい。

問3の「自ら思考を展開した。さらに思考に基づき行動した」と問4の「自らの表現で伝える」の数値が他項目よりも低かった。いわゆる講義形式に傾斜したためと考える。体育授業づくりで押さえない要点を理解すること(インプット)、思考に基づき行動したり、自分の表現で伝えたりすること(アウトプット)のバランスも考慮した授業にしていこうと思う。

アンケートから、本授業の時間外学習として、60%以上の受講生が1時間以上費やし取り組んでいることが伺えました。このことは本授業の成績評価資料である「授業シート」の記載内容からも見てとれました。1単位の授業ですが受講生はよく努力したと思います。但し、15%の受講生が授業時間外学習を「なし」とあり、恐らくその受講生は低い評価になっているのではないかと思います。改善として、「授業シート」への記載は、単なる授業記録ではなく、授業内容を振り返り、学びとして質を高めていく主体的な活動であることを受講生へ丁寧に説明していきたいと思います。

授業の難易度、授業内容の量、については、ちょうどよいと回答している学生が多いことに驚いています。こちらから見ている限り、相当余裕がないように見えていました。こちらが見ている印象と、学生自身が感じていることにギャップがあるのかもしれないと感じました。改善点というわけではありませんが、学生がどのように受け取っているのかを把握する方法を考えていきたいと思います。また、配布物については、教員がではなく、学生が作成したものを配布していますので、配布資料の作成方法についての指導を取り入れていきたいと思ひます。

もう少し学生とコミュニケーションが取れるよう工夫したい。

家庭学習を増やすような内容、工夫を、今後担当することがあれば、増やしたい。

1年生の後期ということで、学校にも慣れ、授業に身が入らない学生もいた。基本的には真面目な学生ばかりなのだが、注意されなければジュースやお菓子を食べたりする。しかし、真面目だから注意されれば素直にやめるのである。そうした教員に対して試すような行動は、こちらも通過儀礼としてとらえている。しかし、一部にはそうした注意に対して反感を持つものもいたかもしれない。アンケートでは全体として好意的な回答が多く、作品の出来についてもとてもしっかりとしていた。期限も守られて、愛教大の学生だなあと実感した。

同じテキストを使っているけど、難しいと考える学生がいます。ピアノの初心者にはひきやすい曲をすすめておりますが、それでもなお、完成度や曲数に大きな差がでてきます。練習量の差が評価につながることを伝え、練習できる場所の工夫をしていきたいと思ひます。

配布資料の見直し。板書スペースが少ないので(移動式ホワイトボードなので)、配布資料を見やすくする。

内容が小学校家庭科なので、大学生にとっては難しいことではない。また、家庭科は生活に身近なものでもあるので、関心は持ちやすいので、さらに、生活の中で実践しながら学びを深められるような内容にしたい。

- ・実施する実技内容について、しっかり説明し理解を得るようにしていきたい。
- ・段階的に理解の様子を確かめ、事後に生かしていきたい。
- ・グループ討議を交えながら実際に授業する場面を取り入れていきたい。
- ・学生が自ら考え学ぶことができるような内容を考えていきたい。

毎時間、十分な予習を行わせる課題を出すことを考えたい。
授業内容と毎時間配布しているワークシートとの対応を考え直したい。

毎時間ごとに学生にはコメントシートの記入を課しているため、これまで以上に、有効な活用方法を検討したい。

本来ピアノのレッスンとは非常に多くの時間を必要とするものである。短い時間のなかで多くの人数の演奏を聴き、大きな進歩が得られるよう導いていくことは困難な作業である。しかし、これからも今までと変わらず、学生がこの授業が終わってもピアノに触れていきたいと思うよう努力していきたい。

それぞれの教科によって学生さんの興味・関心が違っている実態を知ることができました。
授業としては同じ目的ですが、それぞれに授業内容を工夫し、講義をうけてよかった・将来ぜひ教員になって教えてみたいと言っていたできるようにしていきたいと思っています。

授業の予習、復習にあたるような課題を出すことを考えたい。

回答数21の中、1名のみが、同一人物かどうかはわからないが、授業に対して否定的であった事が分かった。授業中も、特に後ろの方に座っている学生の消極的な様子を感じていたが、さらに注意し、改善を図りたい。

「教員の説明がわかりやすい」が①と②を合わせて50%だったので改善していきたい。自由記述で「専門用語の使い方、伝わるのかどうか」という意見があったが、こちらの伝え方を改善できると思った。また、「本当に出来ない人に寄り添った授業なのか、出来る人に物足りない授業ではないか」という意見を頂いたが、意図が伝わっていなかったと反省している。本授業は「体育科研究」であり、実技ができる・できないは評価の対象にもならず、また問わない。体育の授業を進めていくうえで必要な知識・考え方を学ぶ場であるので、それに焦点があたるように次年度以降はやしていきたい。